

7.28 四電 いかたげんぱつ 伊方原発再稼働を許さないデモ

主催：伊方原発の再稼働を許さない市民ネットワーク・広島

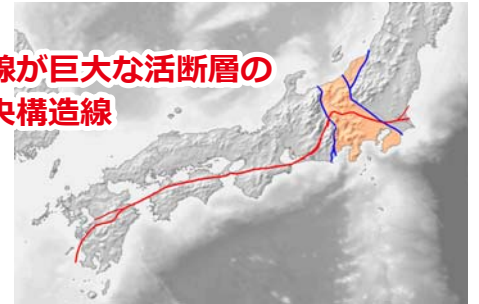


南風に乗れり、潮に乗れり 広島は伊方原発 最大の被害地元 です。

危険な四国電力伊方原発

四国電力・伊方(いかた)原発は危険な原発です。特に3号機(出力89万kW)はプルサーマル炉でウラン・プルトニウム混合酸化物を燃料とし、年間74tを消費します。(広島原爆のウラン核燃料は約60kg)。また伊方原発の間近に巨大な活断層である中央構造線があり、将来大地震を引き起こす危険が指摘されています。さらに通常運転でも瀬戸内海に大量の放射性物質を垂れ流しているほか、敷地内には使用済核燃料棒約9万本、低レベル放射性廃棄物がドラム缶で約3万本蓄積されています。もし、重大な事故、例えば地震によるもの、などが起きれば、こうした危険な放射性廃棄物が環境に四散する可能性が大きいと言えます。(裏面参照)

赤線が巨大な活断層の
中央構造線



原子力保安院がストレステストを承認している原発は、**関電大飯原発3・4号機、それに四電伊方原発3号機**です。**次の再稼働は、伊方原発**です。

「海岸効果」 海で直接繋がる広島と伊方原発

伊方原発と広島は直線で約 100km 離れています。しかし瀬戸内海で広島は伊方原発と直接繋がっているとも言えます。1957年イギリスの西カンブリア州の、兵器級プルトニウムを生産するウインズケール核工場（現セラフィールド核燃料再処理工場）で10月10日大火災が発生、世界初の原子炉重大事故となりました。2万キュリーのヨウ素131が工場周辺500平方キロを汚染しました。風向きのおかげでアイリッシュ海やその対岸のアイランドまで深刻に汚染されました。このための健康被害が明らかになったのは30年後の1983年のことでした。小児ガンと白血病の発生群が確認されたのです。不思議なことに事故を起こしたイギリス本土よりも対岸のアイランド沿岸部の方が被害が大きかったのです。学者グループの綿密な研究の結果次のことが判りました。

- 『 ほとんどのがんについてそれが発症するリスクが、海岸近くで急速に高くなっている。
- その増加は、海岸に最も近い 800 m の細長い範囲で最大となる。
- セラフィールドからの放射性物質が最も高いレベルで測定されてきている、潮汐エネルギーの低い地域の近くで、その増加は最大である。
- その効果はその期間全体にわたって増大しており、1970年代半ばのセラフィールドからの放射能放出のピークに、約5年遅れで追隨している。』

これは「海岸効果」と名付けられました。伊方で事故が起きれば、潮流や風向きで広島は大きな被害を受けるでしょう。広島と伊方原発は海で直接繋がっているのです。

悪質な伊方原発

原発は通常運転でも様々な放射性物質を大気や水中に放出していますが、加圧水型の伊方原発は中でも悪質です。下表は過去10年間の間に放出した液体の形での放射性トリチウムの量ですが悪質な関西電力・美浜、高浜、大飯の3原発をはるかに上回る量を放出しているのが伊方原発です。原子力施設運転管理年報によれば、10年間で550テラベクレルです。すべて瀬戸内海に流されました。放射性トリチウムは体の中に入ると、細胞の高分子組織を破壊する可能性のある放射性物質です。電気事業連合会は安全だと宣伝しています。

四国電力 伊方原子力発電所が 10年間で放出した液体の形での トリチウム（関西電力3原発との比較）

単位：テラ（兆）ベクレル

年度	伊方	美浜	高浜	大飯	総合計
2010	51.0	1.7	5.3	1.3	8.3
2009	57.0	1.8	6.3	6.4	14.5
2008	58.0	2.3	5.9	9.0	17.2
2007	66.0	1.6	6.3	9.8	17.7
2006	46.0	1.5	6.9	6.6	15.0
2005	53.0	1.4	6.8	7.7	15.9
2004	68.0	2.0	6.0	8.9	16.9
2003	54.0	1.8	4.0	7.4	13.2
2002	52.0	2.3	4.3	8.1	14.7
2001	47.0	1.3	6.5	5.6	13.4
合計	552.0	17.7	58.3	70.8	146.8

（原子力施設運転管理年報 平成23年度版による）

大量に放射性廃棄物を蓄積

四国電力 伊方発電所が蓄積する放射性廃棄物

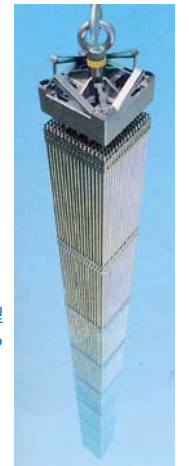
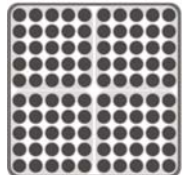
単位：使用済み核燃料は核燃料集合体数
低レベル放射性廃棄物は20%ドラム缶数

	使用済み核燃料			低レベル 廃棄物
	発生量	搬出量	蓄積量	蓄積量
2011年度	84	0	1,408	30,000
2010年度	66	0	1,324	30,000
2009年度	110	70	1,258	29,500
2008年度	58	70	1,218	29,500
2007年度	80	42	1,230	28,500

核燃料集合体

燃料棒を格納する容器のことで、8×8の集合体なら1体に64本の燃料棒が格納されている。2011年度（2011年3月末）には伊方原発の敷地内に合計1408体の集合体が蓄積されている。もしすべて「8×8」のタイプなら、合計約9万本の使用済み核燃料棒が蓄積されていることになる。使用済み核燃料は使用前に比べれば密閉性が保持されていないため、危険であり放射能そのものといって良い。特に伊方原発3号機はプルサーマル炉であるため、ここで発生する燃料棒はプルトニウム酸化物を含んでおり特に危険。11年度、10年度は搬出がゼロであるが、これは搬出先である青森県六ヶ所再処理工場に受け入れる余裕がなくなったため。今後原発を稼働すればするほど、敷地内に溜まる一方。

核燃料集合体を
上から見た図



低レベル放射性廃棄物

数字はすべて20%ドラム缶の概数。低レベルとはいっても、これは使用済み核燃料に比べて話であり危険な放射性廃棄物であることに変わりはない。本来は、青森県六ヶ所村の低レベル放射性物質埋設センターに搬出して厳重に埋設されるべきであるが、満杯のため、2010年度以降搬出できていない。従って下記の写真は、四国電力のサイトから引用したものだが無防備の女性がこの保管所に立ち入ることは法律上許されない。実際にはあってはならない光景。

核燃料集合体模型
高さ4メートルある

